

# 【戦略4】県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

# (その1)

6次産業化や農業と観光の連携等による新たな価値の創出、農産物等のブランド化、国内外への販路拡大により、県産農林水産物の競争力強化や所得向上を目指していく。

## (1) 6次産業化 ～新たな付加価値を創出する6次産業化のさらなる拡大～

### ① 農林漁業者自らの6次産業化プロジェクト

#### 【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
産地直売所販売額	93億円 (H27)	108.4億円 (H29)	114億円	130億円
農産加工所販売額	30.5億円 (H27)	31.6億円 (H29)	33億円	35億円

#### 【30年度の取組み】

##### ○農林漁業者の6次産業化の支援

・農林漁業者自らによる6次産業化の取組みに必要な施設整備や機械導入に対する助成を実施(8件)

＊事業計画のブラッシュアップのための事前相談会(1次:6/19、2次:10/12)、採択に向けた審査会(1次:7/9)を開催

＊6次産業化の取組みの定着や事業拡大を継続して支援するため、経営に関するアドバイザーを派遣(10/9～)

・小規模施設の整備や機械の導入に対する助成を実施(3件)



左:アユ寒風干しの試作品  
上:助成を活用し導入した前処理用の冷凍庫(舟形町)

##### ○デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援

・デザインを活用し、農場や集落全体をブランディングすることにより認知度向上や販売増を図る取組みを支援

＊デザイン活用の啓発リーフレットを作成

＊デザイン活用を考える契機として研修会を開催(7/12、参加者約140名)



デザイン活用の啓発リーフレット

＊農場や法人等をまるごとデザインしブランドイメージの向上を目指すモデル的な取組みに対し助成を実施(5件)

「まるごとデザイン」とは、

事業実施主体の事業や活動について、理念や方向性を整理した上で、これを共通のデザインとして構築し、様々な場面(商品パッケージ、名刺、ユニフォーム等)で活用すること



デザイン活用に向けた研修会の実施

#### <今後の取組み予定>

##### ○農林漁業者の6次産業化の支援

- ・2次募集事案に係る審査会の開催(11/6)と採択(11月下旬)及び事業実施の支援
- ・経営に関するアドバイザーの派遣による助言・指導の実施

##### ○デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援

- ・農場や法人等をまるごとデザインし、ブランドイメージの向上を目指すモデル的な取組みの効果的な実施の支援

#### 【評価と課題】

##### ○農林漁業者の6次産業化の支援

- ・発展段階に応じた支援の実施により、農林漁業者による6次産業化の取組みは着実に拡大しているが、販売が伸び悩んでいる事例も散見
- ・経営に関する助言・指導を行うアドバイザー派遣の結果等も踏まえ、事業の定着や拡大を継続して支援することが必要

##### ○デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援

- ・デザイン活用の啓発のための研修会を開催したところ、多くの農林漁業者等の参加を得、デザイン活用の意義について理解度が向上
- ・モデル的な取組みの支援を継続し、その成果を広く周知することで農林水産分野でのデザイン活用を促進し、農林水産業の魅力向上とブランド力の強化に繋げていくことが必要

## (1) 6次産業化 ～新たな付加価値を創出する6次産業化のさらなる拡大～

### ② 農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト

#### 【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30 目標値	H32 目標値
食品製造業等における県産農林水産物の使用割合(重量ベース)	38.3% (H27)	40.1% (H29)	41%	43%
食料品製造業の製造品出荷額等	3,011億円 (H26)	3,199億円 (H28)	4,200億円	4,500億円
全国の食料品製造業における本県の食料品製造業の製造品出荷額等の割合	1.2% (H26)	1.2% (H28)	1.75%	1.9%

#### 【30年度の取組み】

##### ○農林漁業者と食品製造業者等とのマッチングの強化

・平成29年度に開催したマッチング交流会への参加者の商談進捗状況についてコーディネーターが情報収集を行い、各総合支庁6次産業化支援チームとの情報交換会を実施(5/22～5/31)し、情報を共有化。随時、コーディネーター及び各支援チームと連携し、商談進捗状況の情報収集・フォローアップを実施

##### ○食品製造業者等の商品開発力の強化

・食産業王国やまがた推進事業により、食品製造業者が取り組む県産農林水産物の利用拡大を図る3プロジェクトを採択決定し(8/6)、施設整備を支援(ハード事業)  
 ・やまがた農商工連携ファンドにより、農林漁業者が企業と連携して取り組む4事業を採択決定(9/4)し新商品開発等を支援(ソフト事業)  
 ・新商品開発への意欲向上を図るため、県産農産物等を原料として製造された加工食品の優良事例を顕彰する、やまがたふるさと食品コンクールを実施(8/2)

◇ やまがたふるさと食品大賞「山形いも煮らすく」(株)シベール  
 ※ 山形市悪戸地区産の里芋を使用した芋煮風味のラスクで、上記マッチング交流会をきっかけに商談が進み商品化されたもの



##### ○6次産業化商品等の販路拡大

- ・大手食品卸主催の展示会(6/27)において山形県ブースへの出展事業者を支援。大手食品卸バイヤーを招いた研修会・個別商談会の開催(10/5)
- ・やまがた食産業クラスター協議会と連携して県内食品製造業者・小売業者(13社)を訪問し、首都圏等への販路開拓・拡大等に係る今後の取組み方策について意見交換・情報収集を実施
- ・山形加工食品開拓戦略会議を開催し、首都圏の6次産業開拓推進員等と戦略的な販路開拓の推進等に向けた今後の事業展開方向を検討(9/6)



##### ○地域土産品開発等の推進

- ・食品製造業者等が取り組む土産品開発(訪日外国人向け含む)を支援(計16件)。
- ・訪日外国人向け土産品開発等のための研修会を開催(5/29、6/22)

##### ○米粉・加工用米の利用拡大

- ・米粉利用拡大セミナーを開催(7/20)。山形県農林水産祭において米粉使用メニューの試食提供(10/13)等の普及啓発を実施



##### <今後の取組み予定>

- 農林漁業者と食品製造業者等とのマッチング交流会の開催(2月頃)
- やまがた農商工連携ファンド2次募集を実施(10/22～11/21)
- 山形・宮城ビジネス商談会の開催(11/6)、(株)日本アクセスとの研修会・個別商談会の開催(2月頃)
- 第4回山形土産菓子コンテストの開催(12/1)
- 第1回米粉パンコンテストの開催(12/1)

##### 【評価と課題】

- やまがた食産業クラスター協議会等関係機関と連携し、農林漁業者や食品製造業者等のニーズを把握しながら、マーケットインの視点による売れる商品づくりの支援、地元及び首都圏等での販路開拓の推進を図ることができた
- 引き続き、これまでの取組み、支援の継続とともに、全国の食品卸・小売業者との商談機会の拡大を図ることが必要

## (2) 流通販売・食文化発信 ～価格競争に左右されない「山形ブランド」の創出・定着と輸出促進～

### ⑤ 県産農産物等輸出拡大プロジェクト

#### 【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30 目標値	H32 目標値
県産農産物輸出量	987t (H27)	1,128t (H29)	1,100t	1,300t
国別アクションプラン策定数 (累計)	0件 (H27)	3件 (H29)	5件	8件

#### 【30年度の取組み】

##### ○県産米の輸出拡大

- ・多収米による低コスト・多収技術の早期普及に向け、生産現場に技術実証ほを2か所(山形市、山辺町)設置
- ・米国ハワイ州への「つや姫」の輸出拡大に向け、ハワイ州における消費者の認知度向上を図るため、ホノルル市ワイキキの集客力のある商業施設において、知事によるトップセールスを実施。併せて、工芸品の展示や日本酒セミナー等も実施し、山形県を一体的にPR(9/16)
- ・米国本土への「つや姫」の輸出拡大に向け、カリフォルニア州におけるレストラン関係者等実需者の認知度向上を図るため、在ロサンゼルス日本国総領事公邸を会場に、副知事によるセールスプロモーションを実施併せて日本酒セミナー、和牛セミナー等も実施(10/16)
- ・山形県県産米輸出加速化補助金を創設し、事業者が実施する県産米の輸出拡大に向けた戦略的かつ先駆的な取組みへの補助を開始



低コスト・多収技術実証ほ



ハワイトップセールス(9/16)

##### ○国別輸出アクションプランの策定

- ・マレーシア、タイ、北米、香港のマーケット調査、分析を実施

##### ○東アジア・ASEAN等への輸出拡大

- ・台湾への輸出拡大に向け、消費者への認知度向上を図るため、高雄市のショッピングセンターにおいて、「つや姫」、さくらんぼ、「総称山形牛」のトップセールスを実施(5/27)



台湾トップセールス(5/27)

- ・各マーケットにおける県産農産物の認知度向上、定番化に向け、台湾、香港、マレーシアのスーパー等において、さくらんぼ、メロン等のプロモーションを実施

#### <今後の取組み予定>

##### ○県産米の輸出拡大

- ・低コスト・多収米の海外市場での求評調査の実施
- ・低コスト・多収米によるパックライスの試作と中国主要都市での求評調査の実施

##### ○国別輸出アクションプランの策定

- ・マレーシア、タイ、北米の国別輸出アクションプランの策定
- ・国別輸出アクションプランを活用した、輸出取組者の掘り起しに向けたセミナー等の開催

##### ○東アジア・ASEAN等への輸出拡大

- ・各マーケットのスーパー等において、りんご等、県産農産物のプロモーションを実施

#### 【評価と課題】

- スーパー等小売が中心のプロモーションを実施しており、一般消費者への山形ブランドの認知度は高まってきているが、県産農産物の輸出量をさらに伸ばしていくためには、業務用取引の拡大が必要
- 輸出先国・輸出取組者・輸出パートナーがいずれも固定化傾向にあるため、輸出の拡大が見込まれる国や地域の国別輸出アクションプラン策定の推進や同プランの活用による、新規取組者の掘り起しが必要

# 【戦略4】県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

# (その4)

## (3) 環境農業 ～エコ農産物の付加価値向上と環境や安全に配慮した生産管理の導入促進～

### ③ 安全農産物生産推進プロジェクト

#### 【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30 目標値	H32 目標値
県産農産物の食品衛生法違反件数	0件 (H27)	1件 (H29)	0件	0件
「山形県版GAP」に取り組む農家割合	15.7% (H28)	35% (H29)	40%	50%
国際水準GAP認証農場数	33農場 (H28)	46農場 (H29)	39農場	66農場

#### 【30年度の取組み】

##### ○認証GAPの推進

- ・国際水準GAP認証取得に取り組む生産者に対する技術的支援・助言等を実施
- ・普及指導員等116名をJGAP指導員として育成
- ・国際水準GAP認証取得に要する経費の支援(29農場)



国際水準GAP認証取得取り組み者へ技術的支援等の実施

##### ○山形県版GAPの推進

- ・2020オリ・パラ東京大会に対応できる山形県版GAP第三者認証制度を4月に構築、6月から認証申請受付を開始、9月に第1回、10月に第2回審査判定委員会を開催
- ・各種研修会の開催等により県版GAPの普及・定着を促進



JGAP指導員研修

##### ○病害虫対策の確立

- ・地域特産作物（わらび）の農薬の適用拡大試験（効果試験、作物残留試験及び薬害試験）を実施



県版GAP第三者認証制度の現地審査

##### <今後の取組み予定>

##### ○認証GAPの推進

- ・国際水準GAP認証取得に要する経費の支援（対象者の掘起し）
- ・ガイダンス研修会の開催等による国際水準GAPの認証取得の推進
- ・県内JGAP指導員の資質向上のための研修会（2月）開催

##### ○山形県版GAPの推進

- ・山形県版GAP第三者認証制度の普及拡大
- ・各種研修会の開催等による県版GAPの普及・定着の促進
- ・「安全・安心ブランドやまがた産地協議会」（1月）及び「山形県GAP推進協議会」（1月）の開催

##### ○病害虫対策の確立

- ・近年問題となっている西洋なし胴枯病、りんご黒星病等の病害虫防除技術の構築
- ・地域特産作物（セルリー）の農薬の適用拡大試験の実施

#### 【評価と課題】

- 山形県版GAPに取り組む農家の割合は35%となり、平成28年の約2倍に増加し、国際水準GAPの認証取得は19件46農場（3月現在）に拡大するなど、GAPの取り組みは拡大

- JGAP指導員等のGAP指導員は県普及指導員を中心に育成し、指導体制を強化した。山形県版GAPや国際水準GAP等の認証取得をさらに促進するためには、認証を希望する生産者や団体の掘起しと丁寧な指導・助言を行っていくことが必要